

今こそやろう減災式

前回に続き、東日本大震災の津波災害で「まず逃げることを日頃から肝に銘じていた人が助かった。そこには「**地域や家族の信頼関係**」がありました。

今日、防災や防犯にはコミュニティが大切だと声高に唱えられます。しかし、「**コミュニティ**」これだけでは人の命を救うことはできません。コミュニティとは「**居住地域を同じくし、利害をともにする共同社会。地域社会。**」いわゆる一塊のグループです。このグループの中には、悲しいかな先月号でもお伝えしたように「**コミュニティ破壊者**」も含まれています。コミュニティというグループは、ほんの小さなほころびから簡単に大きく避け壊れていくのです。その壊れのひとつの要因に**依存症**があります。「私ひとりくらい」とか、「うちの家族くらい」更には、「この小さな町くらい」と次第に膨れあがり瞬く間に拡がります。特に、自分に関心の無い物事、一般的に労力を使う活動や責任ある行動から逃げたい時に顕著に表れます。しかし、その依存症の人達は、災害という緊急事態がひと度発生すると自身の持つ「**誤った権利**」を主張し始めます。典型的なものとして、災害後の炊き出し風景に現れます。「**炊き出しをする人**」と「**炊き出されたものを食べる人**」です。炊き出しをする人は、普段からコミュニティに参加して、道具の使用法やグループ内の人達の顔や名前を覚えようと努力し、何かあれば助け合うことをしっかりと肝に銘じた人達です。しかし、「炊き出されたものを食べる人」は食べることや与えられる権利を行使する人達です。自分の町に何があって、どのように使用するのか、周りの人の顔や名前も覚えようもしないし、責任のある物事から逃避した人達なのです。これは少し言い過ぎだとお叱りを受けるかもしれません。「炊き出されたものを食べる人」の中には、食べた後に気がつき「何かお手伝いさせてください・私にできることはありませんか」と、炊き出す側へ変化する人達が多くなるのも過去の災害から確認されています。この変化する人達は、日頃からコミュニティに興味を持ちながら遠目に見ていた人達です。コミュニティに参加する意志はあったが、参加する切っ掛けが無かった人達ともいえるでしょう。でも「炊き出されたものを食べる人」の中には、**炊き出されたものに文句をつけ、後片付けもせず、ゴミはほったらかし、なのに二度も三度も列に並び、他の人に譲り分け与えることを考えない人達**がいます。この人達は、災害後の炊き出しだけでは無く、日常生活でもルールやマナーを守らない人達です。日頃からできていないことは災害時にもでき



ないものです。この人達が「**命を守る行動**」をとらない人達です。簡単に言えば、**守るものの定義が全くなされてい**ない人達なのです。その定義とは、「**自分の大切な人を守る**こと」です。大切な人を守ろうと考える～大切な人が暮らしやすい場所をつくる～その為に町は綺麗に維持したい～そう思うとゴミやタバコのポイ捨てはしない～ゴミ出しマナーやルールを守る～その結果、自宅周辺の清掃活動への参加も大切な行動と意識の連鎖になります。この流れを縁もゆかりも無い、見ず知らずの人のためにやらないといけないと考えるから参加の意欲も起こらず、行動に移せないのです。



「**自分の大切な人を守ることに繋がる**」と考えれば、参加してみようとなるはずですが、そうは行かないようです。何故か？きっかけが無いからです。でも、きっかけは簡単につくることができます。それが「**あいさつ**」です。挨拶をすることで目の前に立ちはだかっていた巨大なハードルは、挨拶をすればするほどに低くなり、あなたはコミュニティの輪の中にしっかりと入りこみます。すると今まで以上に自分の住むまちに興味を持ち、町に愛着を感じ、町を大切にしようとしていきます。



自分の大切な人を守る為には、自分の住む町も大切にすることが重要だと考えられるようになり、責任ある行動をとるようになるのです。そうすると、自分ひとりや自分の家族だけの、小さな単位では生き抜くことができないことに気がきます。それが災害というものを認識した瞬間です。今までメディアから感じていたものとは違い、自分のこととして捕らえることができた時！もし自分たちの町でこのようなことが発生すれば、自分の大切な人はどうなるのだろう？災害直後でも大切な人を残して仕事に向かわなければならないこと、仕事先などで大切な人と離れているときに発生すれば、大切な人は誰が助けてくれるのだろうと考える。それを解決するのがコミュニティの中で最も重要な「**信頼関係**」の構築です。これが昔でいうところの「**お互い様**」なのです。お互い様の精神を身につければ、コミュニティは強靱なものへと変化します。強靱化したコミュニティは「**楽しく住みやすいまち**」をつくることに間違いなく繋がります。



家族の信頼関係は、お互いに「**何があっても生き残る努力**をする」ことを信頼する。私は何かあれば「**必ず命を守る行動**をとる」ということを大切な人と、しっかりと確認し合う。お互いに命を守る行動をとっていると信じ合えば、自分の命を守ることに専念できます。その為に「**命を守る知識**」をしっかりと身につけることが大切です。それらをコミュニティの輪の中でお互いに確認し合う。「**信頼**」これこそが本当の防災活動です。